

News Letter

自治医科大学地域医療オープン・ラボ

Vol.1 May, 2006

文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ

ご挨拶

学長 高久 史磨

自治医科大学は平成17年から魅力ある大学院教育イニシアティブとして地域医療学の研究者養成を始めた。このイニシアティブの特徴は自治医科大学の本来の目的である地域医療振興の一貫としてわが国の各地でその地域に根づいた研究を推進する事を目指している事である。そのため自治医科大学では地域の研究者に大学の研究室を利用していただくオープン・ラボを開く事としている。

オープン・ラボを自治医大卒業生のみならず、地域の第一線で研究を行っている全ての人達に利用していただく事を希望している。

オープン・ラボ ニュースレターの配信にあたって

大学院医学研究科委員会幹事会幹事長 小澤 敬也

新たに設置された地域医療オープン・ラボの具体的活動の一つとして、このニュースレターが配信されることになった。オープン・ラボの主たる目的は、社会人枠で入学してくる大学院生の研究活動をサポートすべく、担当指導教員との間のコーディネート活動をするというものである。今後、地域で活躍しながら自治医大の大学院へ入学してくる意欲的な若手医師が増えてくるのが期待され、地域と大学の間の情報交換のツールとして、このニュースレターが果たす役割は大きいものと考えている。

私は、平成17年度に本学を退任された伊東紘一客員教授から、大学院医学研究科委員会幹事会の幹事長という大変な世話役のバトンを託された。本年度から幹事会の下部組織も再編され、その一つとして地域医療オープン・ラボ運営委員会が設置された。オープン・ラボを直接担当される岩花教授、亀崎特任助教授、熊田助手の3人と、梶井教授、私を合わせた5人がその委員となり、具体的活動方針について話し合いを始めたところである。このニュースレターのプランもその中で生まれた。

さて、一般的通念の社会人大学院とはやや異なり、本学の場合は、地域で働く若手医師にとって有益なシステムになることを主に狙っている。特に、本学卒業生は9年間の義務年限があるが、その後で大学院に入学するこれまでのシステムでは、大学院修了の頃にはかなりの年齢になっており、留学などの様々な面で不利になることもある。その対策として、大学院社会人入学枠をうまく活用することにより、地元で働きながら大学院生としてのスタートを早く切るという新しい選択肢が生まれてきた。もちろん地域で働いている間は疫学研究などが中心になると思われるが、義務年限終了後に大学院後半の活動として、本学の研究室での実験活動に従事することも可能な新しい若手研究者養成システムである。

オープン・ラボの活動が早く軌道に乗ることを期待すると共に、また皆様の積極的な御支援をお願いしたい。

文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブの概要

現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な教育の取組（「魅力ある大学院教育」）を重点的に支援する文部科学省の事業です。

「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、全国147大学から338件の申請があり、97件（国立大学78件、公立大学3件、私立大学16件）が採択されました。医療系では19件が採択され、そのうちの1件が、本学が申請した「地域医療学の研究者養成」です。

平成17年度の取り組みについては、大学院医学研究科のホームページを通じてご案内しております。

<http://www.jichi.ac.jp/graduate/initiative2/initiative2.html>



地域医療学の研究者養成事業の概要

【1】地域医療学の学問的確立と地域医療学研究者の養成

地域医療学という新しい学問分野を確立し、国内はもとより、国外へも広く発信。これにより、地域医療学の研究者及び地域医療の実践者・指導者を育成します。

【2】地域医療オープン・ラボを設置

地域医療の向上に寄与する目的の研究を行うために、広く地域医療の現場に開放された大学院各研究室をもって組織する地域医療オープン・ラボを設置。

地域医療オープン・ラボは、臨床研究から疫学研究までをカバーし、地域医療の現場で提起された課題を解決するために、学内外の研究者が共同研究・開発を行う場として開放し、創出された研究成果を広く地域医療に還元するための情報発信の場とします。

大学院学生にとっては、地域医療オープン・ラボを利用した研究を通じて、研究に必要な実験のデザインなどの研究手法を数多く学ぶことができます。

また、地域医療オープン・ラボには、専任のコーディネーターを配置し、大学院学生への研究指導の一端を担います。



【3】長期履修制度と社会人入学枠を設置

地域医療に従事している者や地域医療を志向する者に門戸を広げ、有為な人材を研究へ導くため、「長期履修制度」を設け、就学の便宜、授業料等の軽減を図ります。

また、「社会人入学枠」を設け、「昼夜開講制」を導入します。これにより、地域医療の現場で活躍する社会人が大学院教育を受けられる環境を整備します。

【4】複数教員による指導体制の確立

研究課題の設定から学位授与へ至るプロセスを複数の教員が指導する体制を更に強固に構築します。

また、授業科目ごとに到達目標を設定し、課程修了までの各段階に修得すべき具体的項目を明示し、目標に向かって学生の自発的学習を促します。併せて、FD (Faculty Development) を導入し、教育する側の教育技術及び motivation の向上に努めます。

【5】世界各地の地域医療学研究を支援

世界各地の医師等の医療人を積極的に受け入れ、各国の各地域の医療事情を考慮した地域医療学の研究を支援、推進し、修了後には母国の地域医療学の教育研究者として送り出すことを目指します。

本学においては、既に、中国、タイ王国、モンゴル国から学生を受け入れており、修了者は母国に戻り、本学と連携を取りながら優れた研究を進めております。

地域医療オープン・ラボ専任コーディネーター



(写真左より熊田助手、岩花教授、亀崎特任助教授)

地域医療オープン・ラボ スタッフルームは、本館3階エレベーター横(旧・セミナー室)に設置されています。スタッフは岩花弘之(教授、徳島県・1期)、亀崎豊実(特任助教授、鳥取県・13期、常陸大宮済生会病院派遣中)、熊田真樹(助手、鳥取県・14期)の3人です。

現在は、本年度より開始された社会人学生の教育環境を充実させることについて検討を重ねております。

社会人特別選抜試験は、地域医療に従事している者、地域医療を志向する者及び地域医療の現場で活躍する社会人等が本学大学院医学研究科博士課程において最新の

医学知識・技術を学び、地域医療の現場で提起された課題について研究し、その研究成果を地域医療に還元することを目的として設けられた制度で、本年度は5名の社会人学生を迎え入れております。

本学より遠く離れた地で地域医療に従事しながら学ぶ社会人学生もおりますので、多くの方々のご協力をいただきながら充実した大学院教育環境を整備していきたいと思っております。ご意見等がありましたら、下記までご連絡下さいますようお願いいたします。

連絡先：openlabo@jichi.ac.jp／岩花 PHS 6455／亀崎 PHS 6688／熊田 PHS 6285

自治医科大学大学院医学研究科

地域医療オープン・ラボ運営委員会

事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

TEL 0285-58-7044／FAX 0285-44-3625／e-mail openlabo@jichi.ac.jp

<http://www.jichi.ac.jp/graduate/index.htm>